

風しんの排除認定について（報告）

厚生労働省 健康・生活衛生局

感染症対策部 感染症対策課

予防接種課

風しんの発生動向と排除認定について

日本における風しんの発生動向

・国内での「土着株の感染伝播」であった1E L2-5が2020年の第12週に検出された以降、5年間（60ヶ月）以上、散発例の報告のみであり、風しんウイルス土着株の感染伝播は認められていない状況。

・先天性風しん症候群（CRS）は、2021年第2週に1例報告があった以降、発生していない。

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
風しん										294	147	87	378	2,386	14,344	319	163	126	91	2,941	2,298	101	12	15	12	9	10
CRS	0	1	1	1	1	10	2	0	0	0	2	0	1	4	32	9	0	0	0	0	4	1	1	0	0	0	0

※「感染症発生動向調査」に基づき健康・生活衛生局感染症対策部において作成。

※ 2024年は週報速報値（暫定値）、2025年は2025年9月19日時点の速報値。

風しん排除の認定要件

1. 「土着株による風しんの事例」が最後に認められた後、36ヶ月以上、「土着株の感染伝播」がないことを証明。
2. 国内事例・輸入事例の発見に十分な感度と特異度を持つ質の高い動向調査の仕組みの存在。
3. 「土着株の風しんの感染伝播」が断ち切られたことを示す遺伝子型上の根拠の存在。

⇒ 1～3の全ての排除認定要件を満たしている。



令和7年9月26日、WHOにより日本の風しんの排除が認定された。

日本の風しん対策と取り組みについて

目標

平成26年に「風しんに関する特定感染症予防指針」を告示し、
「早期に先天性風しん症候群の発生をなくすとともに、風しんの排除を達成すること」を目標とした。

これまでの主な取り組み

- **定期予防接種の実施**：定期接種率の目標をそれぞれ95%以上とする。（令和6年度：第1期92.7%、第2期91.0%）
- **自治体に対する技術支援**：風しん発生時の届出や、対応手順の手引き等を作成し、自治体に配布。
- **抗体検査・予防接種の推奨**：普及啓発、自治体に対する抗体検査補助事業を実施。（補助率：国1/2、都道府県等1/2）
- **感染症発生動向調査**：感染症の発生情報の正確な把握と分析から、有効かつ的確な対策を図り、感染症の発生及びまん延を防止。風しんは五類感染症だが、「直ちに届出」の対象。
- **感染症流行予測調査**：集団免疫の現況把握、病原体の検索等の調査を行い、予防接種事業の効果的な運用や総合的に疾病の流行を予測。
- **風しんの追加的対策**：過去に公的に予防接種を受ける機会がなかった特に抗体保有率が低い昭和37年4月2日から（令和元年度から令和6年度まで）昭和54年4月1日生まれの男性に対し、追加的に抗体検査・予防接種を実施。
（対象世代の男性の抗体保有率：89.0%（2024年度時点 2025年2月集計の暫定値）
実施累計：抗体検査約504万人、予防接種約109万人（2025年3月集計））

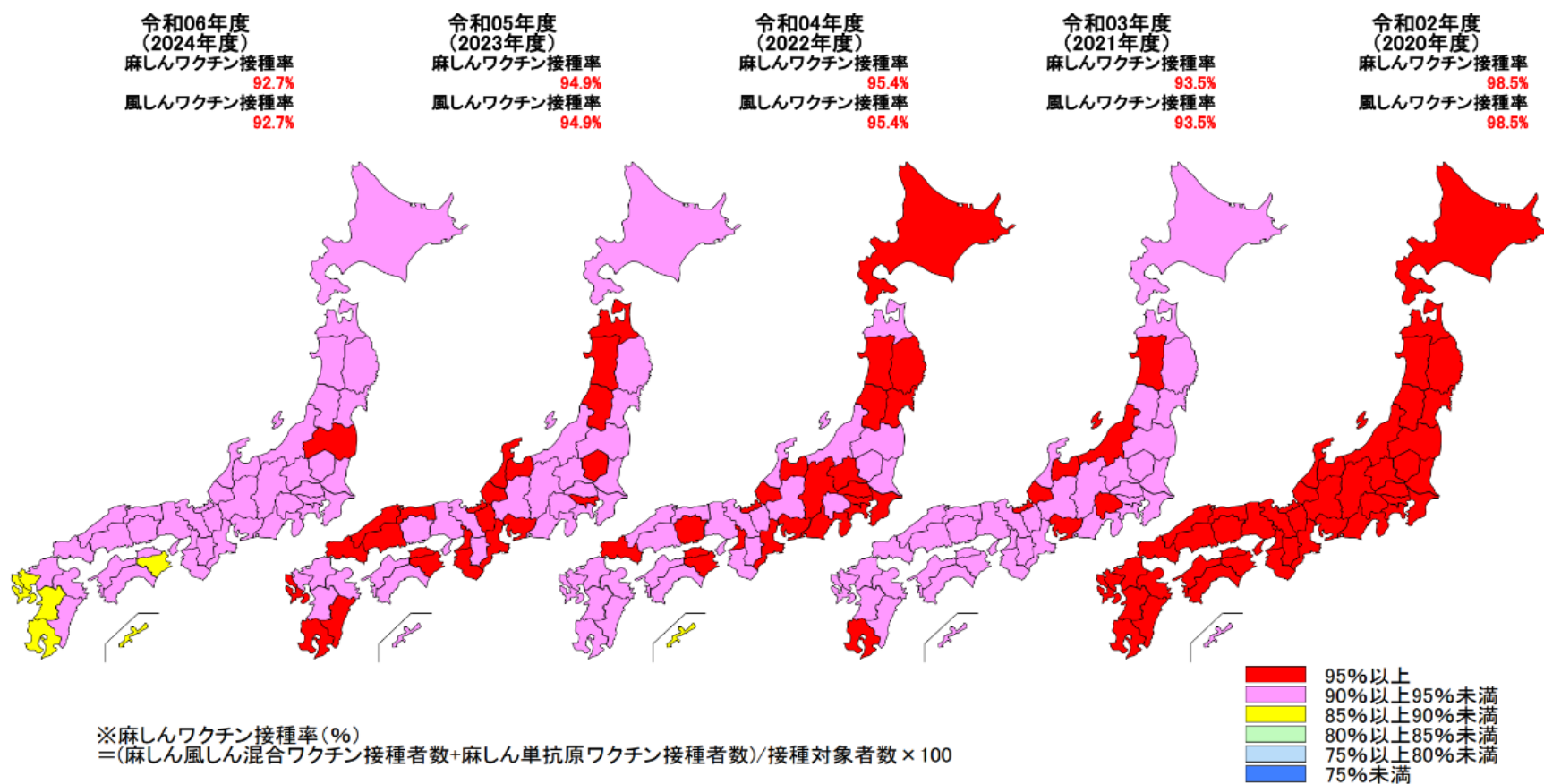


排除認定後も引き続き、風しんの排除状態を確実に維持するために、
今後も継続した風しん対策の推進に努めてまいりたい。

(参考) 麻しん風しんワクチンの接種率の推移

- 麻しん・風しんワクチンの接種率は、特定感染症予防指針で接種率目標を95%と定めている。
- 95%以上の接種率を達成している地域（下図の赤）が減少しており、今後も排除状態を継続し確実な発生の予防に努めるためには、積極的なワクチンの接種が必要。

第1期 麻しん風しんワクチン接種状況



※麻しんワクチン接種率(%)
=(麻しん風しん混合ワクチン接種者数+麻しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100

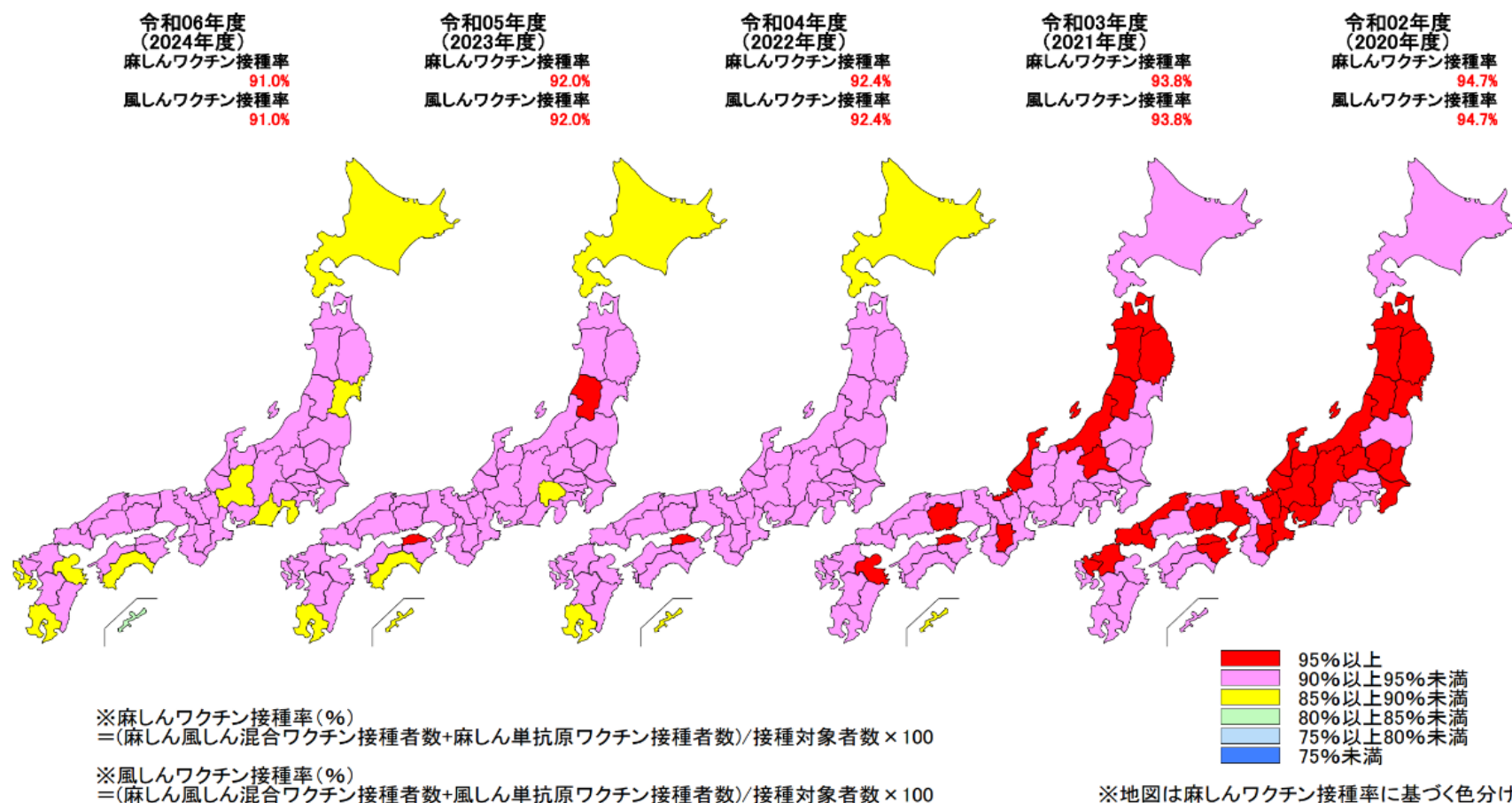
※風しんワクチン接種率(%)
=(麻しん風しん混合ワクチン接種者数+風しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100

※地図は麻しんワクチン接種率に基づく色分け

(参考) 麻しん風しんワクチンの接種率の推移

- 麻しん・風しんワクチンの接種率は、特定感染症予防指針で接種率目標を95%と定めている。
- 95%以上の接種率を達成している地域（下図の赤）が減少しており、今後も排除状態を継続し確実な発生の予防に努めるためには、積極的なワクチンの接種が必要。

第2期 麻しん風しんワクチン接種状況



(参考) 風しんの追加的対策について

○**風しんの追加的対策**：過去に公的に予防接種を受ける機会がなかった特に抗体保有率が低い昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれ（令和6年度45歳から62歳）の男性に対し、

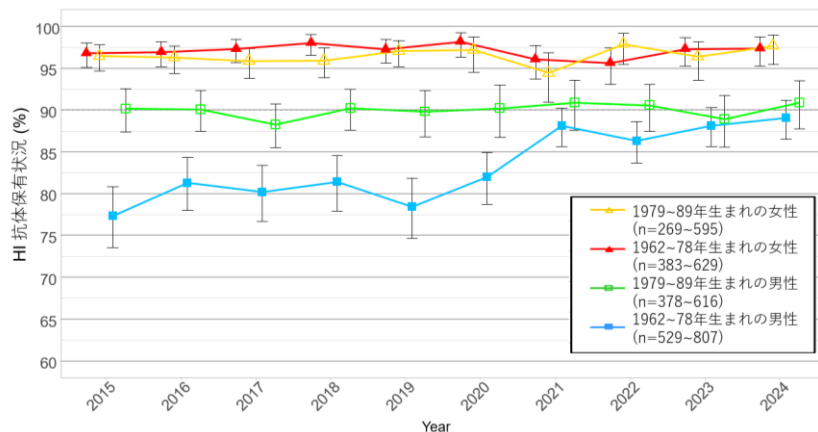
①予防接種**法に基づく定期接種の対象**とし、令和元年度から令和6年度まで**全国で原則無料**で定期接種を実施。

（当初3年間の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響から目標が達成できず令和3年度に3年間延長とした。）

②ワクチンの効率的な活用のため、まずは**抗体検査**を受けていただくこととし、補正予算等により、全国で原則無料で実施。

③事業所健診の機会に抗体検査を受けられるようにすることや、夜間・休日の抗体検査・予防接種の実施に向け、体制を整備。

出生年度別風疹H I 抗体保有状況
（抗体価1：8以上）の年度推移



対象世代の男性の風疹H I 抗体保有状況
（抗体価1：8以上）の年度推移

2018年度：81.1%（95%CI：78.0～84.2%）

2019年度：78.1%（95%CI：74.6～81.6%）

2020年度：82.1%（95%CI：79.2～85.0%）

2021年度：87.9%（95%CI：85.7～90.1%）

2022年度：86.6%（95%CI：84.3～89.0%）

2023年度：88.1%（95%CI：85.6～90.6%）（暫定値）

2024年度：89.0%（95%CI：86.5～91.2%）（暫定値）